

地域民俗芸能の御神楽修復

A2201110 国分寿美

◆研究の背景

3.11の震災において、津波や地震の被害にあった地域文化財には獅子舞の獅子頭や御神輿など漆が使われているものも少なからず見受けられる。そして、多くの地域で祭礼等ができなくなっていると知った。そこで、震災以前行われていた祭礼を復活させ、被災した地域文化財の修復方法について研究するとともに、漆器産地である会津地域において今後の地域民俗芸能の御神楽修復の可能性を拡大する。

福島県南相馬市萱浜地区で被災した御神楽（獅子頭）に着目して研究を進めた。

◆研究のねらい

震災と津波、原発災害により、散り散りになってしまった地域コミュニティを地域文化財の修復、修理を通し、祭礼などの行事によって復活することが目標。南相馬市萱浜地区を例に取り、少しでも被災地に活気を戻せるようにする。

漆器産地である会津地域においての地域民俗芸能の御神楽修復の可能性を拡大する。その為、これからの漆産業を支えていく若い世代の漆職人と共に修復作業を行なう。

◆研究のプロセス

◇新潟の御神楽

夏季休業中に県立博物館を通して新潟の被災地から修理依頼されていた獅子頭の修復をし、引渡し、実際に大地の芸術祭のイベントで使用していただいた。獅子頭の修復で基本的な文化財の修復について研究した。



修復前



修復作業



修復後

◇萱浜地区の御神楽

萱浜地区の御神楽を修復するにあたって地域の集会に参加し、祭礼を復活させることに対しての意見をアンケートで聞き集計した。結果は修復することに前向きな意見が多かった。

萱浜地区の方々と会津地域の漆職人と短大を結ぶ、御神楽修復プロジェクトを立ち上げた。会津地域の漆職人と共に修復作業にあたる。修復の様子は萱浜地区の方々にも見て頂ける様、ブログを制作した。

発見当時



全体



集会の様子



◆修復作業

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 損傷部分の記録 | 7. 砥ぎ |
| 2. 修復部分の確認 | 8. 塗り |
| 3. 分解作業 | 9. 研磨 |
| 4. クリーニング | 10. 髷(たてがみ)を製作 |
| 5. 漆を浸透させる | 11. 組み立て |
| 6. 下地 | 12. 最終確認 |
| | 13. 完了 |

作業の様子



◆成果物

- ①修復した新潟の御神楽と萱浜地区の御神楽。
- ②Web で情報公開・共有するためのブログ。作業の進行具合や修復状況をブログにアップする。ブログのデザインは御神楽のイメージに合わせて制作した。

URL: <http://urush1.blog.fc2.com/>

◆考察・感想

新潟の御神楽は何十年もの間、蔵で眠っていたため地域での認識も薄かったが、越後妻有「大地の芸術祭」でのイベントで使用された際に、集落の方々が会場に集まり、御神楽を観て団欒している様子から、日本の民俗文化による地域のコミュニケーション作りは意義のあることだと感じた。共通の話題やイベントを行なうことによって新たな絆を構築できると考えられた。

萱浜地区の方々に修復作業の様子などブログ等で現状を伝えられたので、ブログを活用できたと思う。避難している人たちが御神楽修復の情報を見て、郷土愛に触れ、萱浜地区だけでなく御神楽を大切にしている浜通りの各地域の人たちにとっても、それぞれのお祭りを忘れず、将来においてふるさとを思い続けることに繋がればよいなと思った。修復が間に合えば2月に萱浜地区で行なわれる慰霊祭に御神楽を届け、舞を行なう事も考えている。

修復プロジェクトで、漆工品の保存修復学修士で会津漆器に携わる若手の漆職人と共に修復作業を行なった結果、会津地域において地域民俗芸能で用いる御神楽(漆を使用しているもの)や神輿等の民俗文化財はもとより、様々な指定文化財の修復も可能だと考えられた。これまで会津での修復の経験があまりない為に専門の指導者が必要と考えられていたが、今回、地元にも保存修復学を修め、また専門技術も持ち合わせた漆工職人もいることがわかり、今後、広く文化財修復を新たな漆工産業のひとつとして活かす可能性も感じられた。